

実践編

最適な中央材料室の運用 ～基礎知識から実務の実際まで～（前編）

医療法人伯鳳会 赤穂中央病院
感染管理認定看護師/特定看護師
勝平真司

実技編（1）

1) オリエンテーション

- 病院の背景

2) 器材の流れ

ア) 手洗浄（標準予防策、手洗浄の実際）

イ) 器械洗浄

ウ) 洗浄器の日常点検

エ) 洗浄時の器具の積載方法

オ) 洗浄インジケータの使用（置き場所）

カ) 洗浄器のスイッチを押す時に注意する事（指差確認）

キ) 洗浄記録（洗浄器のスイッチを押す時に記載）



当院の洗浄エリア

洗浄器

- ウォッシャーディスインフェクター（GETINGE46シリーズ）2台
- 超音波洗浄器（OLYMPUS ENDOSONIC）

洗浄剤

- 中性酵素洗浄剤 PLURAZYME[®] EXTRA NCC
- 洗浄機用洗浄剤 アルカリ性 パワークイック[®]サラヤ
- 洗浄機用洗浄剤 中性 パワークイック[®]サラヤ
- 潤滑防錆剤 Evergreen 90[®]エムシーサービス

オリエンテーション（当院の背景）

- 兵庫県赤穂市（人口5万 周辺人口15万）
 - 総合病院（265床：ケアミックス）
 - 2次救急
 - 臨床研修指定医療機関
 - 感染対策向上加算1（コロナ病床8床）
 - 中央材料室（一次洗浄廃止）
 - 洗浄エリア、組み立てエリア、既滅菌エリア
 - 年間手術件数2000件
 - スタッフ数*（看護師10名、助手2名、ME1名）
- *手術室、中央材料室兼務



各エリアのレイアウト



現在のエリア：

洗淨エリア（不潔ゾーン）	実践編	前編
組立エリア（清潔ゾーン）	実践編	後編
保管エリア	実践編	後編

以前のエリア 2007年までは、組立エリアと一緒に。

洗淨エリア（不潔ゾーン）、
組立エリア（清潔ゾーン）
分ける目的で移動しました。

洗浄時に必要な個人防護具 1/2

エプロンの注意点：脱ぐ時に汚染しないように外側は触らない。

手袋の注意点：最後に履き、最初に脱ぐ（一番汚染されているため）
脱ぐ時に汚染しないように。

※本来は壁掛けを推奨

キャップの注意点：前面は触らない。

ゴーグルの注意点：血液、体液から眼（粘膜）を守るため必ず装着。



洗浄時に必要な個人防護具 2/2



きちんと着脱しましょう。個人防護具は直ぐに装着できる場所へ配置。

手洗浄（シンクの使い方 etc）

シンクでの注意点：

- ①日頃からシンクを清掃しておくこと。
- ②温水の量、温度、洗浄剤の量はきちんと測定すること。

※洗浄剤について

アルカリ洗浄剤、中性洗浄剤（酵素系洗浄剤）
別紙まとめ

手術道具の洗浄について：

- ①かなり酷い血液、体液の固着がある場合や
整形外科で使用するリーマー等はブラッシングを行う
- ※撮影用の未使用の手術道具

※エアロゾルが発生しないように温水の中で洗浄する



洗浄剤はどんな種類があるの？

洗浄剤の種類	主な特徴	主な使用用途	注意点
酸性洗浄剤	<ul style="list-style-type: none">・ 無機物、錆、水垢等の洗浄に適している・ 金属に対する腐食性が強い・ 皮膚への影響が強い	<ul style="list-style-type: none">・ 錆除去剤・ 熱ヤケ除去剤・ スケール除去剤	皮膚刺激性が強いため使用する際は个人防护具（手袋、マスク、エプロン）を装着する
中性洗浄剤 (酵素系洗浄剤)	<ul style="list-style-type: none">・ アルカリ洗浄剤よりも洗浄力は劣る・ 被洗浄物の材質への影響が比較的少ない・ 皮膚への影響が比較的少ない・ 環境への影響が比較的少ない	<ul style="list-style-type: none">・ 酵素系浸漬洗浄剤・ 用手洗浄用洗浄剤・ 超音波洗浄機用洗浄剤・ ウォッシャーディスインフェクター用洗浄剤	水溶液の温度を40～50℃に維持することで効果が最大限に発揮される
アルカリ洗浄剤	<ul style="list-style-type: none">・ 洗浄力に優れ、医療器材の洗浄に適している・ 被洗浄物の材質への影響があるため、注意が必要・ 皮膚への影響が強い	<ul style="list-style-type: none">・ 超音波洗浄機用洗浄剤・ ウォッシャーディスインフェクター用洗浄剤	洗浄力が非常に高いため医療器材の洗浄に適しているが、皮膚への影響も強いため、使用は機械洗浄に限ることが望ましい

洗浄装置の日常管理

- 装置外観、洗浄槽内部、ドアシール部、給水、給湯、純水電気などの設備を目視確認する
- 洗浄槽底のストレーナやフィルターに集積された異物、スプレーアームの回転がスムーズに行われ、均等に水が噴霧する事を確認する
- 洗浄剤の残量確認、定期的に洗浄剤の注入量と濃度を確認する
- 洗浄ポンプの水圧を確認する



ストレーナ



スプレーアーム



洗浄剤

洗浄装置の日常管理（補足）



「穴が塞がってしまうと十分な水流が得られない」



「洗浄槽底のストレーナの異物（ゴミ）も除去」



「フルサイズバスケットに14cm止血鉗子 約40本までしか入れない」

洗浄器

- ウォッシャーディスインフェクター（GETINGE46シリーズ）2台

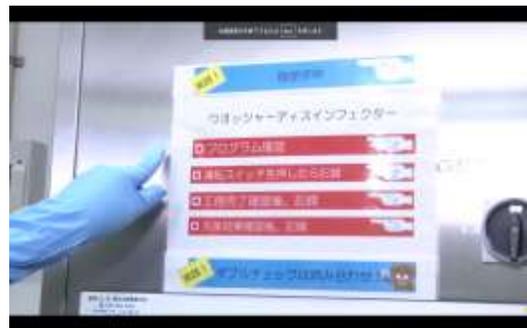
洗浄時の器具の積載方法（補足）



洗浄インジケータの使用の有無は各施設でご検討下さい。
インジケータを付ける場所はスプレーアームが
あたりにくい隅の対角線上に付ける事が良いとされていま
す。
※インジケータについて、後編の方で多く触れます



当院では洗浄器具が少ない場合は再下段にバスケットを置
くようにしています。



指差し確認を行い、運転スイッチを押したらすぐに記録することで
インシデント、アクシデントを予防します。

洗浄器

- ウオッシャーディスインフェクター（GETINGE46シリーズ）2台

注意点

熱凝固した血液や組織

薬液（特にイソジン）

- 多量に入ると泡立つ→洗浄力低下、水漏れ
- 酵素洗剤の不活化をまねく→洗浄力低下

* ある程度洗い流してから、装置へ！！

軟膏などの薬剤

- 落としきれない場合がある

骨片など固形物

- 器具の隙間に固形物が挟間っている場合は取れない
- 多量の骨片は、あとの掃除が大変

乾燥した血液，ミゾや隙間に入り込んだ組織

- 落としきれない場合がある



- 器具の詰めすぎに注意。

フルサイズバスケットに14cm止血鉗子
約40本

- 鉗子は概ね90°に開いて入れる
- 内腔器具などは専用アタッチメントに接続して洗う。
- 器材の耐熱温度を確認する



洗浄時に必要な個人防護具 脱ぐ方法



- 1, 手袋の上から消毒をします
 2. 手袋をまず外します。
一番に汚染してる手袋を捨てます。
- ※ この時に 綺麗に手で外側を触らない！



- 3, 必ずこの手袋の内側に手を入れて 内側から手袋を外すようにしてください
廃棄し、すぐ消毒します



- 4, エプロンは この 首輪の輪っかを外します。
。

- 5, クルクル束ねて、引っ張り契って捨ててください

「コロナ対策の一貫で院内統一しましたが、手袋を脱ぐ前に手指消毒をしなくても構いません。」